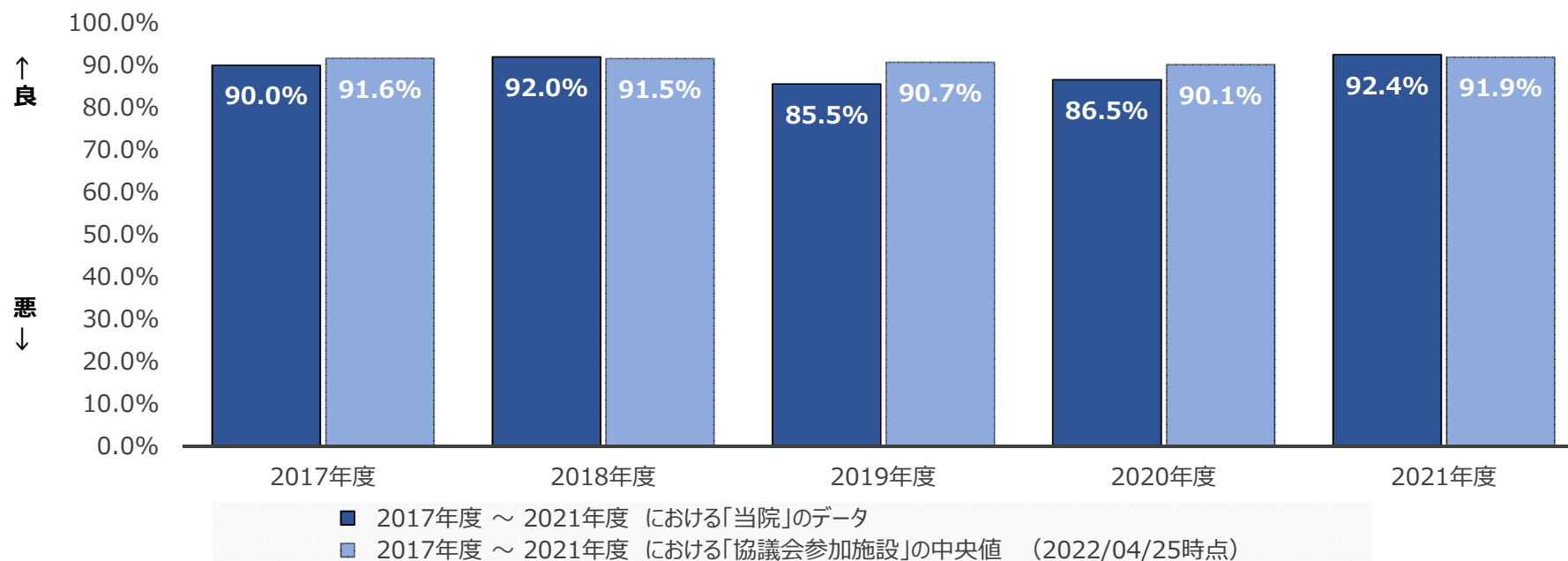


【14】肺血栓塞栓症の予防対策実施率



<定義>

(分子) 肺血栓塞栓症の予防対策が実施された手術数
 (分母) 肺血栓塞栓症の発症リスクが「中」以上の手術数

※肺血栓塞栓症予防対策…弾性ストッキング間歇的空気圧迫装置の利用、抗凝固療法

※リスク「中」以上の手術…全自病から配布される対象手術リストによる

<コメント>

肺血栓塞栓症は、大きな手術後、ベッド上安静を長くしている場合に発症しやすいとされています。

今回の指標では、手術のリスク分類を行い、中リスク以上の手術の前後で対策が行われている率を測定しました。

対策を積極的に取り組んでいる病院は率が高くなります。

血液凝固を抑える薬剤（抗凝固剤）を使用できない患者さんや弾性ストッキングを下肢に着用できない患者さんもいらっしゃいますので、このような患者さんが多い病院では率が低くなります。

当院の値は高く、ほぼ調査参加病院の中央値並みの実施率であると言えます。2019年より電子カルテのシステムが変更となり、やや低下していますが、対象患者に漏れがないようにチェック体制を整えることにより、2021年度は協議会参加施設の中央値まで増加しています。